



道の駅の来場者へあんぼ柿の魅力伝えました



あんぼ柿づくりを体験



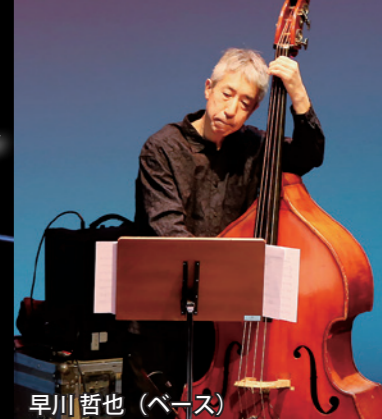
あんぼ柿の紙芝居を読み聞かせ



くにみっ子あんぼ柿PR隊  
このおいしさ みんなに伝えたい

# ジャズの世界へようこそ

## ～木住野佳子 Jazz Trio コンサート～



早川 哲也 (ベース)



加納 樹麻 (ドラム)

**国** 見町応援大使でジャズピアニストの木住野佳子さんによるコンサートが1月18日、観月台文化センターで開かれました。今回は、観月台文化センター開館と木住野さんのデビュー25周年を記念して、初めてJazz Trio コンサートとして開催。

木住野さんの弾くベーゼンドルファーと早川哲也さんのベース、加納樹麻さんのドラムのサウンドで、ジャズの名曲「ワルツ・フォー・デビー」から木住野さんのオリジナル曲「極楽鳥」などアンコールも含め全11曲を演奏しました。3人が奏でる音色がホールに響き渡ると訪れた来場者をジャズの世界へ引き込み、魅了しました。

会場からの拍手を受けた木住野さんは「また最初からコンサートをやり直したいくらい楽しい時間でした」とコンサートの感想を語りかけました。

コンサート終了後、来場者からは「3人の音色がきれいでとても楽しいコンサートでした」。

**国** 見小学校4年生の児童たちが1月23日と24日、「くにみっ子あんぼ柿PR隊」として、道の駅国見あつかしの郷であんぼ柿をPRしました。

児童たちは、昨秋、総合学習の時間にあんぼ柿づくりを体験しました。先生は、あんぼ柿づくりのベテラン高橋一吉さん(貝田)です。皮むき器で皮をむき、1つ1つヒモに結わえる…。

甘くておいしい。あんぼ柿のおいしさと作業の大変さを知った児童たちはあんぼ柿の良さを知ってもらおうとPR隊をつくり、道の駅でPRすることにしました。

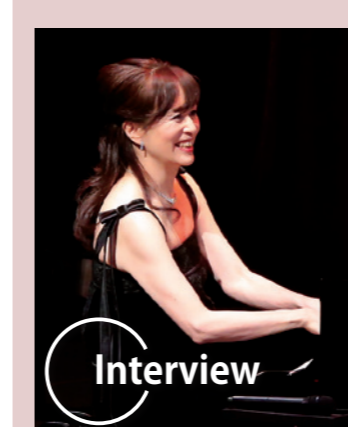
当日は、販売体験のほか自分たちで作成したパンフレットやレシピの配布、紙芝居、あんぼ柿のグッズが当たるくじ引き、子どもが遊べるゲームなどで、あんぼ柿の魅力来場者に伝えました。



大好きなあんぼ柿を多くの人に知ってもらいたい

**お** じいちゃんとおばあちゃんが作っているあんぼ柿の作り方を授業で学び、このおいしさを多くの人に伝え、喜んでもらいたいとみんなで色々なアイデアを出しました。

今日はいくじ引き係を担当しました。多くの人にあんぼ柿の良さを伝えることができ、嬉しかったです。



国見町応援大使 木住野佳子さん

音色で素晴らしさを伝えたい

**観** 月台文化センターが大好きで、何度も来ています。ベーゼンドルファーの音はもちろんです。2つが合わさることでもとてもいい音色になり、気持ちが良くていつまでもここでピアノを弾いていたくなります。

応援大使に委嘱されてからは町の魅力を発信していきたいと思っています。まずは、ピアニストとして、ホールとピアノの素晴らしさを私の音色で多くの人に届け、みなさんと一緒に盛り上げていきたいです。

これからもこの場所に来ることができたら幸せです。

「トでした」、「木住野さん独自の日本的な演奏とハーモニックな演奏がとてもよかったです。ベーゼンドルファーもなかなか聞く機会がないので良かった」、「ジャズも観月台文化センターホールも初めてでしたが、音の響きが素敵でした。また、来たいです」と満足の声がかれました。



当日は観月台に特設カフェがオープン

## 一鳥取・高瀬地区で集落環境診断を実施し鳥獣被害の防止に向け

**地** 域の鳥獣被害対策を少しでも前進させるために鳥取高瀬地区が12月5日、モデル集落としての取り組みを開始し、集落環境診断を実施しました。

午前中は、鳥獣被害対策の専門家や県の担当者などの指導を受けながら地区の川沿いや畑、農道などを見回り、野生鳥獣の足跡や掘り起し、これら野生鳥獣の出没を引き起こすエサとなる農作物残さや隠れ場所などを調査しました。雑草などは少ない時期でしたが、夏場には野生鳥獣の出没につながる「ヤブ」や管理が放棄されたほ場もあったほか、獣道やイノシシの掘り起しあなど多数見受けられました。午後からは、調査結果を地図上に記入し、今後の地区としての課題や改善策などについて話し合い、【安全・安心な子供の声が聞こえる高瀬地区】を目指すために



地区の集落環境診断



課題や改善策を話し合い

参加者からは数多くの意見が出されました。

主な意見は、①野生鳥獣のエサとなる家庭ごみや農産物の収穫残さの適正な処分 ②草刈りなどによる「ヤブ」の除去 ③電気柵の設置 ④空き家や耕作放棄地への対策などです。

高瀬地区は周囲の山林から距離があるにもかかわらず、鳥獣出没の痕跡が数多く発見されています。効果的な鳥獣被害対策は、地域の現状を把握し、その情報を地域住民で共有していくことです。今回の集落環境診断は鳥獣被害対策が決して他人事ではなく、自分のこと、自分の地区のこととしてとらえる大きな起点となりました。